

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:90-93.

造血幹細胞移植を受け自宅退院した患者の生活上の困難と対処-  
Approaches and coping strategies to the problems of patients undergoing  
HSCT

高橋 つぐみ, 佐々木 弥奈, 苅田 ほのか, 納村 歩美, 三浦  
美佳

## 造血幹細胞移植を受け自宅退院した患者の生活上の困難と対処

### Approaches and coping strategies to the problems of patients undergoing HSCT

旭川医科大学病院 5階西ナーステーション

○高橋 つぐみ 佐々木弥奈 荻田ほのか 納村歩美 三浦美佳

【目的】造血幹細胞移植を受け自宅退院した患者の、退院後の生活で感じた困難感や不安、それに対する工夫や対処方法を明らかにし今後の退院支援について検討する。

【方法】A病院で過去5年以内に造血幹細胞移植を受けた患者のうち重篤なGVHDや免疫不全がない外来患者7名を対象とした。半構造的面接を行い、逐語録を作成しコード化した。コードから内容の類似性によってサブカテゴリーを作成し、更に抽象度を高めカテゴリーを作成した。本研究は所属する施設の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】分析の結果から193のコード、29のサブカテゴリー、8カテゴリーに分けられた。以下カテゴリーを『』、サブカテゴリーを「」で示す。

『体力低下の自覚と対処』では「日常生活において体力の低下を自覚」し、「意識して体調をみながら行った体力回復のための運動・活動」により「体力の回復の実感」へと繋がった。『内服管理の困難と対処』では「内服管理の困難感」を感じ、各々に「内服管理の工夫」をしていた。『食事に関わる困難と対処』では「食事について受けた指導」を元に食事の衛生管理や食べるための工夫をしているが「制限解除後も生もの等を摂取することの不安」を抱きながら生活していた。『移植後合併症・GVHDについて受けた指導と症状・対処』では、「辛い症状の自覚」や想像以上の症状による「合併症やGVHDによる困難感」があったが、「事前に情報を得ていたことでの困難感の軽減」があった。また、個人差がある症状に対して『患者同士のサポートへの希望』も聞かれた。更に、退院後の生活をしていく上で『周囲のサポート』が重要であり、「いつでも対応してくれる医師がいることによる安心」が大きいということがわかった。

【結論】患者は、体力の低下、内服管理、食事、合併症・GVHDについて困難を抱えていた。様々な困難を抱えながらも、体力の低下や内服管理については受けた指導内容を元に自己で対処できていることもあった。一方で、食事やGVHDに関する予防的な行動には困難感を感じていた。食事やGVHDに関して、患者の日常生活に合わせた個別的な退院支援が必要と考えられた。

## 造血幹細胞移植をして 自宅退院した患者の 生活上の困難と対処

旭川医科大学病院 5階西病棟 高橋 つぐみ  
佐々木弥奈 苅田ほか 納村歩美 三浦美佳

## 日本造血幹細胞移植学会 COI 開示

筆頭発表者名：高橋 つぐみ

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある  
企業などはありません。

### 目的

- 造血幹細胞移植を受け自宅退院した患者の退院後の日常生活で感じた困難感や不安、それに対する工夫や対処方法を明らかにする。
- 今後の退院支援のあり方について検討する。

### 方法

#### 対象者

- A病院で過去5年以内に造血幹細胞移植を受けた患者
- 重篤なGVHDや免疫不全がない外来患者7名

#### 基本属性

- 性別：男性5名、女性2名
- 年代：20～60代
- 疾患：MF、ALL、MDS、NK/T cell lymphoma、MDS overt AML
- 移植：臍帯血移植3名、非血縁者間骨髄移植3名  
血縁者間同種末梢血幹細胞移植1名

### 方法

- インタビューガイドを用いて半構造的面接を行なった。
- 対象者の同意を得た上で録音し逐語録を作成した。
- コードから内容の類似性によってサブカテゴリーを作成し、更に抽象度を高めカテゴリーを作成した。
- 質的研究の専門家にスーパーバイズを得た。

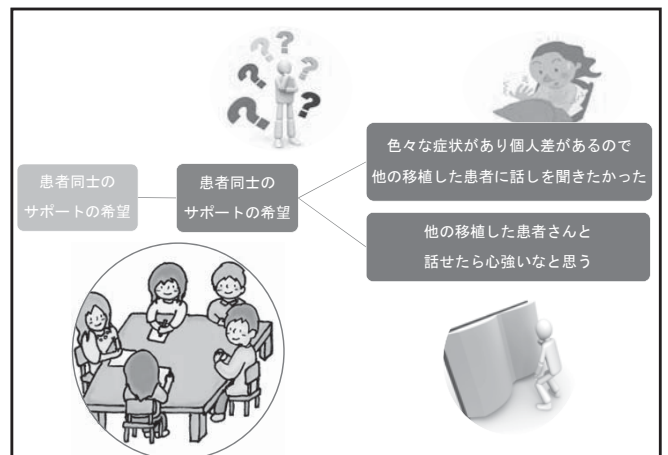
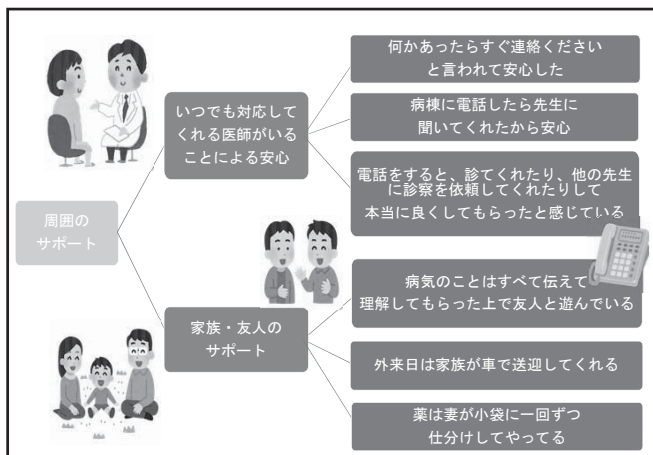
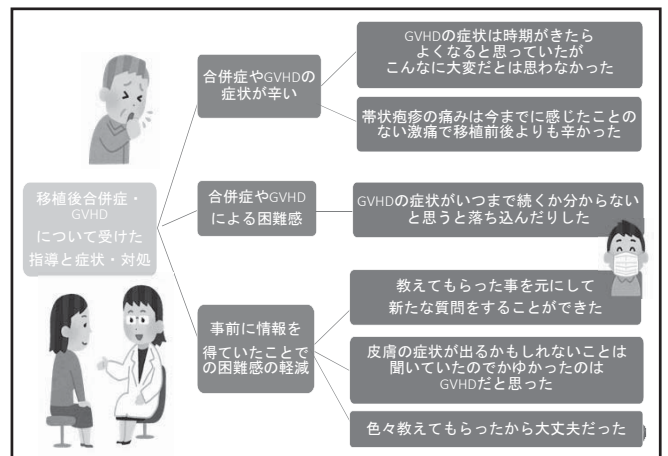
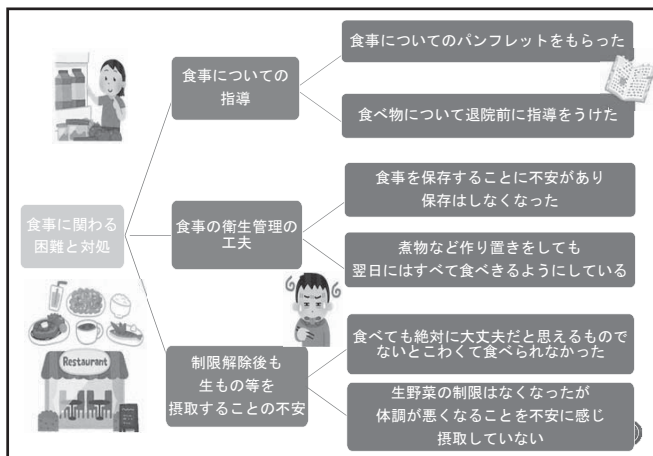
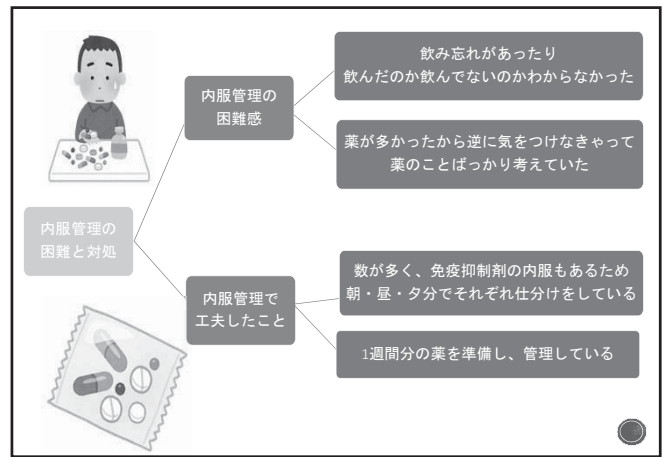
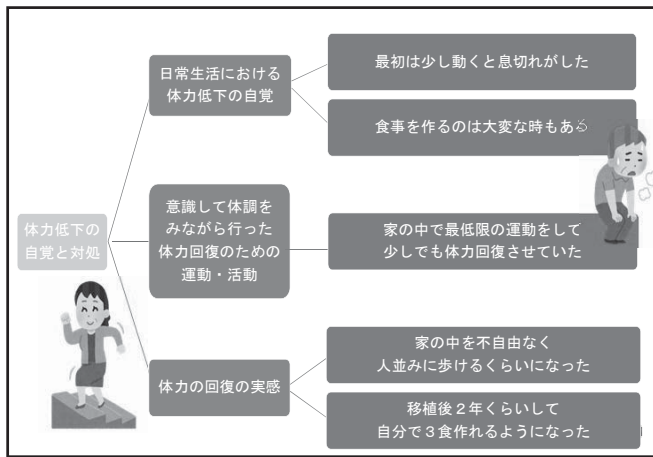
#### 倫理的配慮

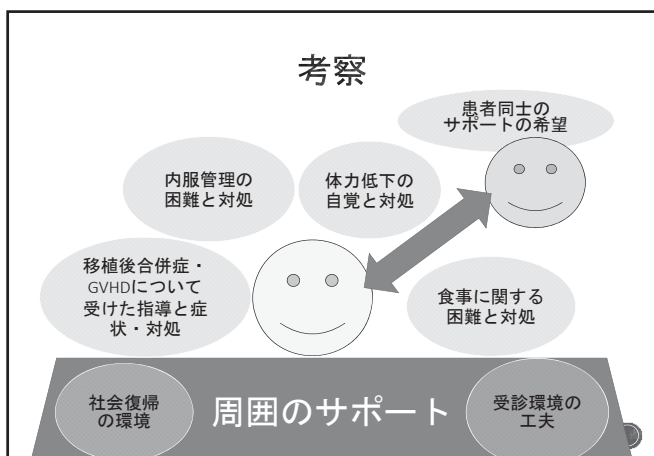
倫理委員会での承認を得られた同意説明文書を用いて、文書および口頭による十分な説明を行い、対象者の自由意志による同意を文書で取得した。また、同意後も随時同意の撤回ができ、撤回による不利益を受けないものとした。

### 結果

193のコード、29のサブカテゴリー、8のカテゴリーに分けられた  
カテゴリー

内服管理の困難と対処	体力低下の自覚と対処
移植後合併症・GVHDについて 受けた指導と症状・対処	社会復帰への環境
受診環境の工夫	患者同士のサポートへの希望
食事に関わる困難と対処	周囲のサポート





### 結論

- 患者は、体力の低下、内服管理、食事、合併症・GVHDについて困難を抱えていた。
- 体力の低下や内服管理については受けた指導内容を元に自己で対処できていることもあった。
- 食事やGVHDに関する予防的な行動には困難を感じていた。
- 食事やGVHDに関して、患者の日常生活に合わせた個別的な退院支援が必要と考えられた。